

### 仙台市における核種別線量と核種別降下物の比放射能の時間変化

石井慶造<sup>1)</sup>、長久保和義<sup>1)</sup>、松山成男<sup>1)</sup>、寺川貴樹<sup>1)</sup>、佐藤光義<sup>1)</sup>、山崎浩道<sup>2)</sup>、結城秀行<sup>2)</sup>

東北大学大学院工学研究科<sup>1)</sup>、東北大学サイクロトロン・RIセンター<sup>2)</sup>

#### 1. 目的

リサーチレポートNo.2で示したスペクトルの詳細を調べる。

#### 2. 方法

東北大学サイクロトロン・RIセンターの玄関において放射線のエネルギースペクトルを測定、また同センターの屋上において、一日間に降下した放射性物を採取し、Ge検出器で核種分析を行った。

#### 3. 結果

図1の上に核種別線量(平成23年5月25日発表)、下に核種別降下物(平成23年4月21日発表)の比放射能の時間変化を示す。リサーチレポートNo.2の3月21日と3月25日のピークは、主にヨウ素131からのものであったことが分かる。

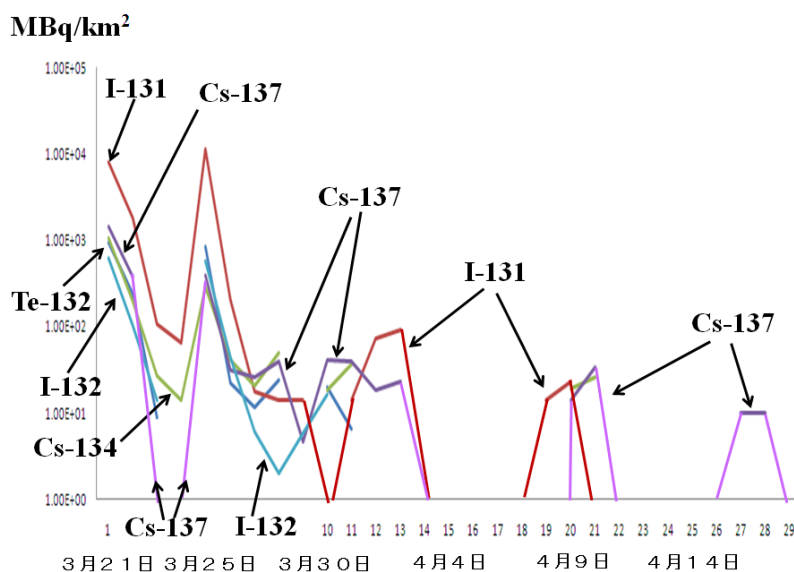
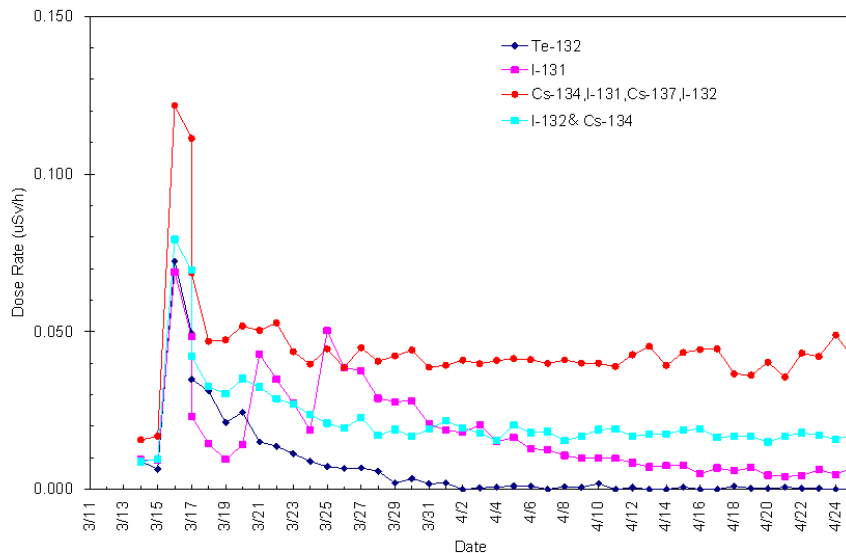


図1 仙台市における核種別の線量と降下物比放射能の時間変化

作成者：石井慶造